



355

2022年/イギリス映画
配給:キノフィルムズ/122分

2022 (令和4) 年2月5日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

監督: サイモン・キンバーグ
出演: ジェシカ・チャステイン / ペネロペ・クルス / ファン・ビンビン / ダイアン・クルーガー / ルピタ・ニョンゴ / エドガー・ラムレス / セバスチャン・スタン

👁️👁️ みどころ

近時は、ジェニファー・ローレンス主演の『レッド・スパロー』（17年）やシャーリーズ・セロン主演の『アドミック・ブロード』（17年）等の女スパイ活劇が花盛りだ。

黒澤明監督の『七人の侍』（54年）では、農民を救うために「七人の侍」が集結したが、コードネーム「355」の結成は、悪の組織が企む第三次世界大戦を阻止するための。現実の世界は米中対立で大変だが、本作ラストの舞台となる、上海での女スパイたちの結束と友情に注目！

ストーリーの馬鹿馬鹿しさは織り込み済みとして、さて、本作の評判は？そんなスタンスで本作を鑑賞。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆ジェームズ・ボンドの『007』シリーズやマット・デイモン主演の『ボーン』シリーズも良いが、「スパイ活劇」ものだってもっと女性の登用を！そんな声に押されて、『チャーリーズ・エンジェル』シリーズでは、キャメロン・ディアス、ドリュー・バリモア、ルーシー・リューという3人の若くてスタイルのよい3人の美女たちが、男勝りのアクションをみせてくれた。その第2作の『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』（03年）（『シネマ3』274頁）はサービス精神旺盛で、先輩のエンジェルだったデミ・ムーアまでが敵役として登場していた。

近時は、ジェニファー・ローレンス主演の『レッド・スパロー』（17年）（『シネマ41』189頁）やシャーリーズ・セロン主演の『アドミック・ブロード』（17年）（『シネマ41』194頁）等の女スパイ活劇も花盛りだ。

しかして、本作では、中国の美人女優ファン・ビンビンまで巻き込み、合計5人の美女がコードネーム「355」の女スパイとして活躍。そうなる面白くなると思う一方、『オーシャンズ』シリーズと同じように、大味になってしまう可能性も・・・？

◆ジェシカ・チャステインが女スパイ・アクションを制作したいと要望したことから本作が生まれたそうだから、本作の当初の舞台はアメリカのCIAになる。そこで格闘術に励んでいるメイス（ジェシカ・チャステイン）に与えられた最初の任務とは？東西冷戦時代の本格的スパイものは当然シリアスだったが、本作に登場する国際テロ組織は、セキュリティをくぐりぬけ、世界中のインフラや金融システムなどへ攻撃が可能な“デジタルデバイス”の開発を完了。このデジタルデバイスが動き始めれば第三次世界大戦は必至？

それを阻止するのが5人の美女スパイたちの任務だが、メイスはCIA、マリー（ダイアン・クルーガー）はドイツ連邦情報局、最先端のコンピューター・スペシャリストであるハディージャ（ルピタ・ニョンゴ）はイギリスのMI6に所属するバリバリ現役スパイだ。他方、コロンビアの組織に所属している心理学者グラシー（ペネロペ・クルス）、そして本作ラストに登場する、中国政府で働くリン・ミーシェン（ファン・ビンビン）は一体どんな役割を？さらに、そもそもなぜこの5人が集結することになったの？

黒澤明監督の名作『七人の侍』（54年）の導入部のストーリーは、農民たちの依頼を受けて七人の侍たちが結集するものだったが、さて本作にみる美女スパイ5人が結集していくストーリーの行方は・・・？

◆5人はそれぞれ優秀な女スパイだが、女である以上、仕事と恋人、結婚、子供と両立が課題になるのは仕方ない。しかし、5人の中で、結婚して子供もいるのは、心理学者のグラシーだけ。それは彼女がスパイとしてではなく、心理学者という表看板だけで生きているからだ。他の4人はスパイとして危険な最前線の肉弾戦に臨まなければいけないから、メイスとハディージャは恋人はいるものの、その男女関係は微妙な距離らしい。他方、ドイツの女スパイ、マリーは天涯孤独らしいが、それはなぜ？

さらに、昨今の世界の注目は中国だが、ラストに向けてなぜファン・ビンビン演じるリンが登場し、舞台が上海のオークション会場になるの？近時のハリウッド映画に大量の中国資本が流入していることは事実だが、本作のそれはHow much？その額によってリンの果たす役割の大きさも変わってくるが、さて、リンはいかなる役割を？

◆本作は全世界の美人女優5人が結集したハリウッド映画だが、ネット情報では、「低評価納得のポリコレ感」と書かれ、また、「自称映画通の潔癖症患者による誹謗中傷コメントが目立つ」と書かれている。さらに「娯楽アクションというのに、アクションシーンで印象に残るシーンがほとんどなく、このレベルであれば、テレビドラマでもできてしまう」とも書かれている。新聞では、そこまで酷評されず、それなりに書かれているが駄作であることは間違いない。しかし、もともとこんな映画はそれでいいのでは？導入部に見るメイスのワンピース姿での格闘が難しいのは当然だが、それはそれとして割り切れば、それなりのもの・・・。

2022（令和4）年2月9日記